

ITコーディネータ協会の イノベーション人材育成活動について

特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

常務理事
平 春雄

2014年5月20日

ITコーディネータはIT経営を実現するプロフェッショナルです



ITコーディネータ協会は、ITコーディネータの育成・認定・普及・啓蒙等を通じて、企業や団体の経済活動における戦略的なIT経営の浸透と、それにもとづく国際競争力の維持、

ひいては活力ある経済社会の発展など、広く公益の増進に寄与することを目的として活動しています。

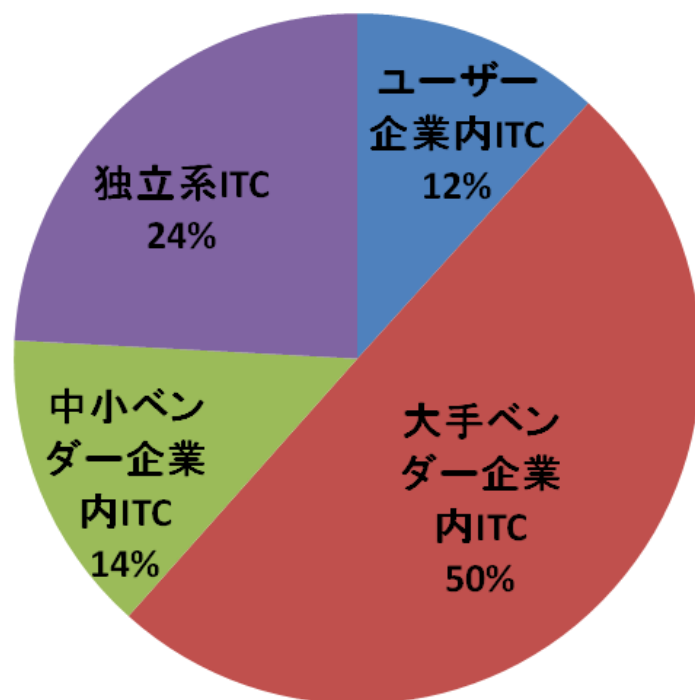


資格者 6,200名

- (1) IT経営に関する普及・啓蒙事業
- (2) ITコーディネータの育成事業
- (3) ITコーディネータの資格認定事業
- (4) IT経営に関する研究開発事業

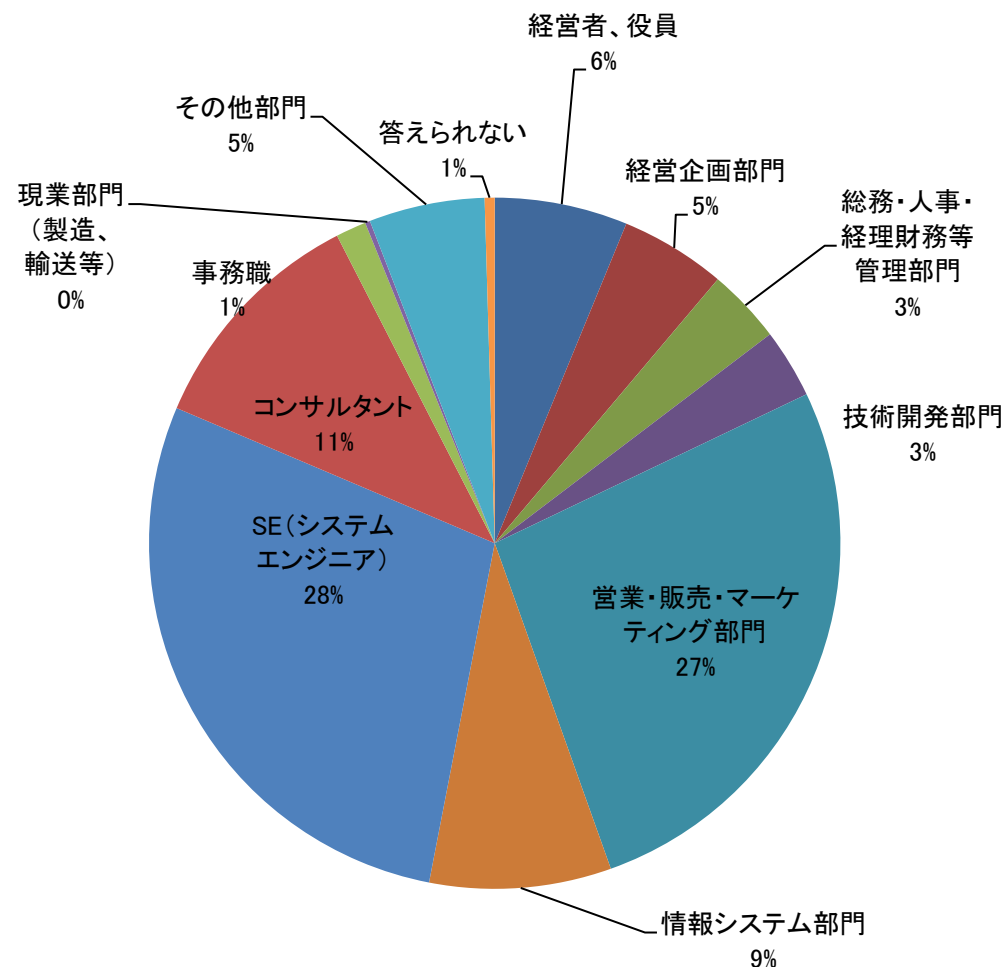
2013年度資格更新対象者(5,073名)の調査

ITCの所属 N=5,073



中小ベンダーは、従業員300人以下の企業

うち企業内ITCの職種 N=3,859



ITCAのイノベーションへの取組み

(1) 目的

企業を取り巻く環境が激変し、IT融合の時代となり、個人および組織のイノベーション能力が強く求められているため、ITCのイノベーションに関わる実践力を高める。

(2) ねらい

- ・産構審次世代高度IT人材報告でのITCAへの期待に応える。
- ・ITCの実践力に付加価値(イノベーション能力)をつける。
- ・ITCが支援する中小企業や、所属する企業から評価される。
- ・新しい分野の研修コンテンツ提供への期待に応える。

(3) 施策

- ・「イノベーション経営プロセスガイドライン」(IPGL)の開発と公開
- ・育成のための「イノベーション研修」の開発と研修実施
- ・ITC試験、ケース研修へのイノベーション分野の組み込み
- ・企業のイノベーション能力評価指標の研究

ガイドラインの開発と公開

経営者から実務者まで実践のガイドラインとして使っていただくために、日経BP社から出版しました。



5月20日から全国の書店で発売
ネット購入は、
日経BP書店、アマゾンから

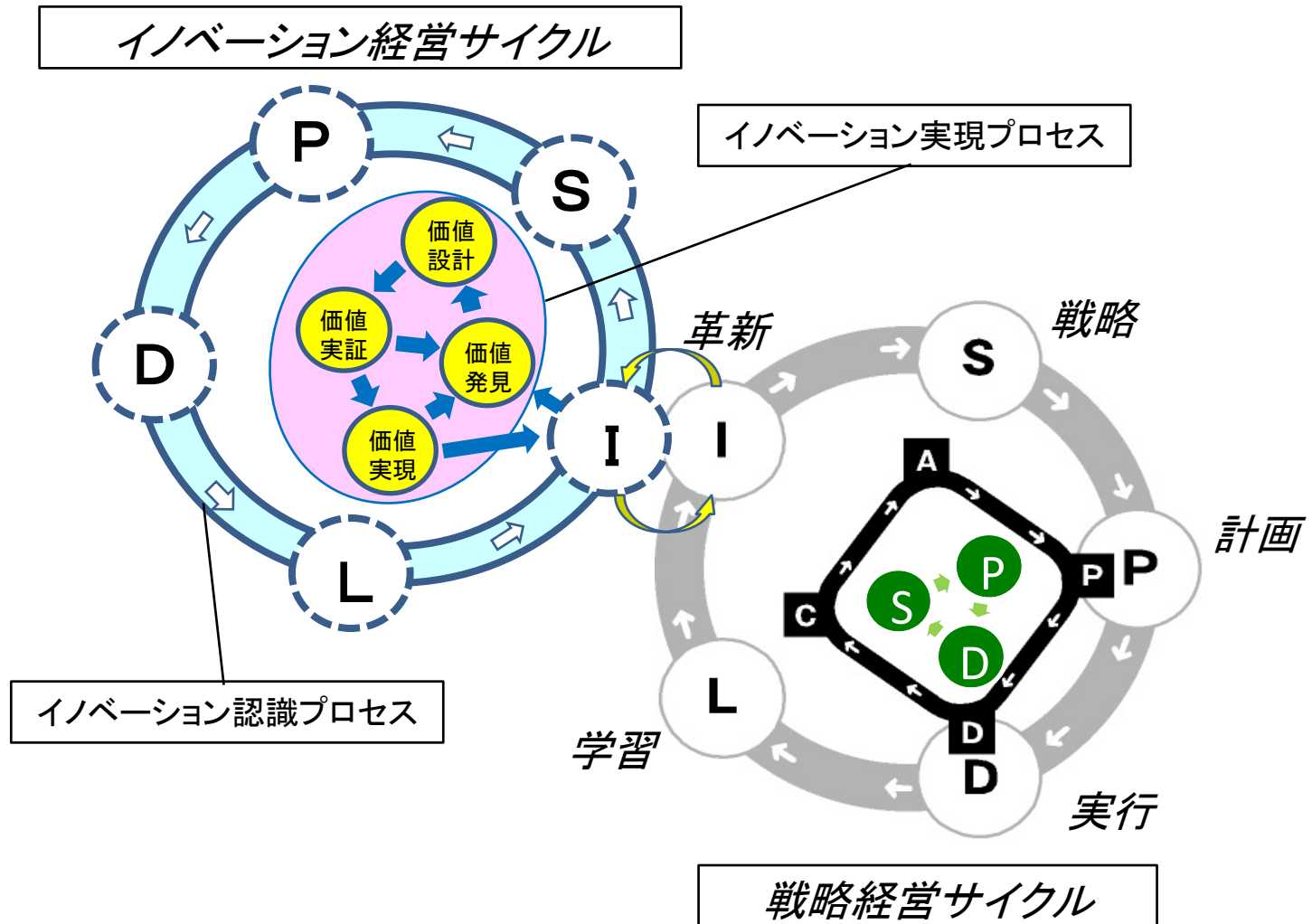
定価：3700円（＋税）

イノベティブ人財を育てる唯一の
ガイドラインとも言える本書は、
組織的イノベーションのDNAとして
「イシ・イノベーション」を提案しており、
「知的機動力」を生かす経営や現場の
構想力を支える書としてお薦めします。

野中郁次郎

イノベーション経営のプロセス

企業が既存の事業を進めながら自ら改革を進め、新規事業を展開する上では、イノベーション経営サイクルと戦略経営サイクルの両方をうまく動かすことが重要です。



■ イノベーションについて

- ・本書で扱うイノベーション
- ・イノベーションを進める上での考え方
- ・イノベーションの阻害要因と解決の方向性
- ・イノベーション経営サイクル
- ・イノベーションを起こすための仕組みや組織
- ・イノベーションを起こすための意識改革
- ・イノベーションに関わる人財の役割

■ イノベーション経営のプロセス

- ・イノベーション経営プロセスの概要
- ・プロセスチャートのまとめ
- ・基本原則と基本姿勢
- ・イノベーションを起こす能力

■ イノベーション実現プロセス

- ・イノベーションの姿勢と方向性の確認フェーズ
- ・価値発見フェーズ
- ・価値設計フェーズ
- ・価値実証フェーズ
- ・価値実現フェーズ

■ イノベーション認識プロセス

- ・イノベーションの姿勢と方向性の認識フェーズ
- ・イノベーションのプロデュースフェーズ
- ・持続的イノベーションの認識フェーズ

■ イノベーション環境・体質構築プロセス

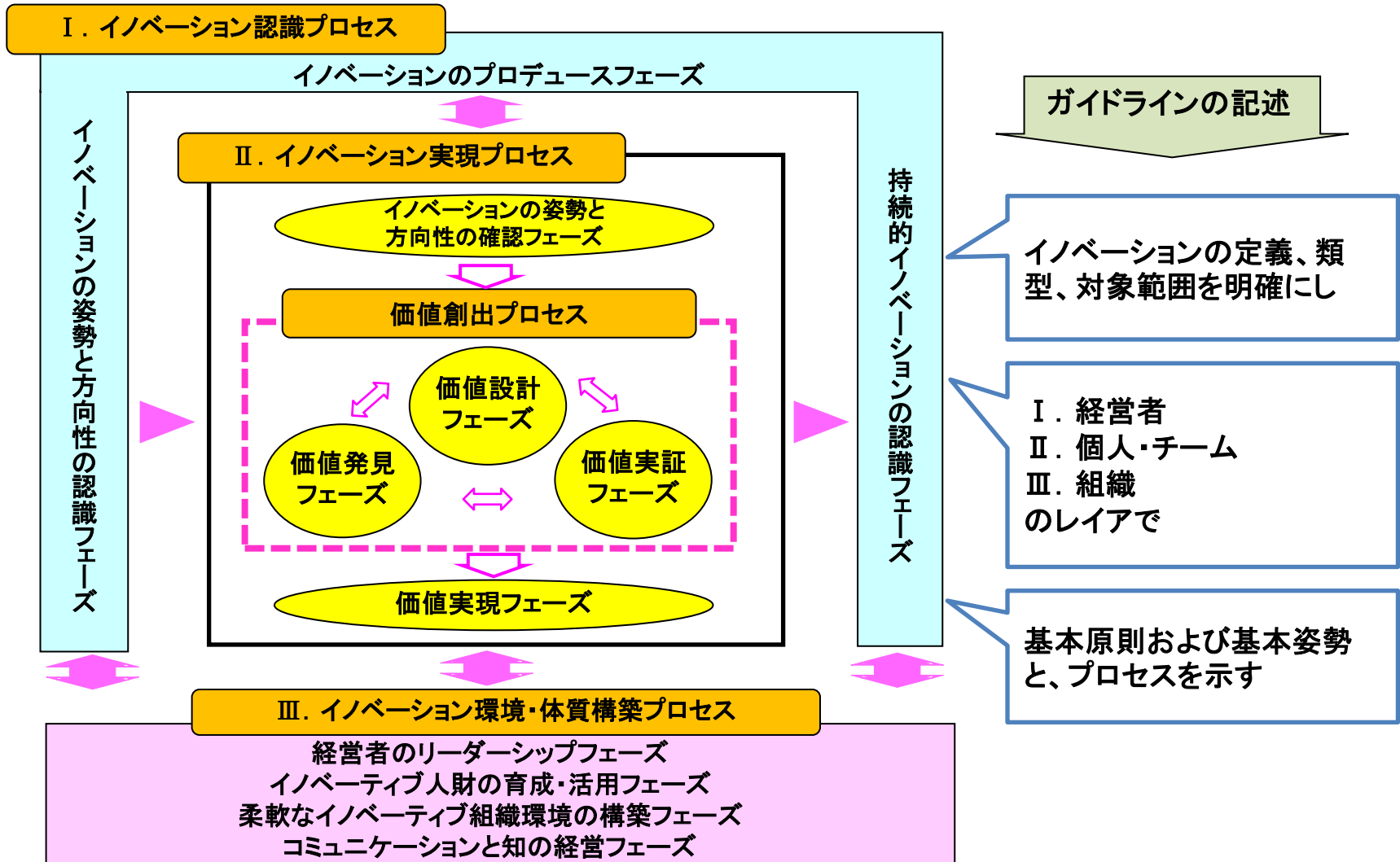
- ・経営者のリーダーシップ
- ・イノベティブ人材の育成・活用フェーズ
- ・イノベティブ組織環境の構築フェーズ
- ・コミュニケーションと知の経営フェーズ

■ イシ・イノベーションの重要性

- ・イシ・イノベーションとは何か
- ・イシ・イノベーションを実現する要因
- ・イシ・イノベーションの考え方
- ・イシ・イノベーションの効果

イノベーション経営プロセスのモデル化

イノベーション経営サイクルをモデル化し、下図にまとめました。



- ・ITCAでは、研修の体系化を行い、受講生に各講座の位置づけが理解できるようにしました。
- ・ITCAやITC地域コミュニティにおいて、中小企業経営者、自治体などとの連携を図り、多様な人材が交流する、実践的学習の場が作れるようにしました。
- ・各種団体、企業内研修にも使っていただくように設計しております。



ITCAの「イノベーション気づき研修」例

経営者にイノベーションにむけての新たなアプローチとその真価に気づいていただく研修の例です。イノベーションに対する意識を喚起し、自社でイノベーションのリーダーシップを発揮してもらうことが最終ゴールとなります。

イノベーションの6つの気づき

■人まかせのイノベーションはありえず、関係者はこの6つの気づきを持ってイノベーションに取り組む必要があります。

研修を通して「気づき」を実感

■イノベーションの新たなアプローチとその真価に気づき、実感していただきます。

2014年7月24日(木)
JISA SPES
秋葉原UDXにて
一部公開研修を披露します

危機感⇒イノベーションの必要性

取り巻く環境の変化

自社の強み/弱み

市場での立場(市場性)

商品・サービスアイデア

ビジネスのモデル化

経営者の「気づき」の連鎖

6つの気づき

- 1.目の前の危機に気づく
- 2.大きな環境変化に気づく
- 3.自身の立ち位置に気づく
- 4.市場の潜在ニーズに気づく
- 5.共創が新アイデアを生むことに気づく
- 6.可視化のパワーに気づく

研修の流れ

自社の立ち位置の再定義

新たな立ち位置の認識(ビジョン)

新しい価値発見

新たなビジネスアイデア発想

ビジネスアイデアの可視化

初期ビジネスモデル

演習1

気づき2,3,4

演習2

気づき5

演習3

気づき6